

TKS report vol.24

TECHNOLOGY AND KNOWLEDGE ENRICH SOCIETY

第113期中間報告書

2018年3月1日～2018年8月31日

■ トップメッセージ/企業理念



contents

トップメッセージ/企業理念	— 1
決算ハイライト	— 2
事業内容	— 3
事業の概況	— 4
第2四半期(累計)連結財務諸表(概要)	— 5
特集 新ブランド「Fine Puls」のご紹介	— 7
トピックス	— 9
株式情報/会社概要/役員等	— 10



代表取締役社長
竹中 洋



平素は格別のご支援、ご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社グループの第113期上半期（2018年3月1日～2018年8月31日）のわが国経済は、企業収益や雇用環境の改善などを背景に緩やかな回復基調で推移いたしました。しかしながら、全国各地に大きな被害をもたらした大型台風や豪雨、記録的な猛暑の影響や、米中の保護主義的な通商政策により引き起こされた貿易摩擦による世界経済の下振れリスクの増大等により、景気の先行きは不透明な状況となっております。

このような状況の下、当社グループは、試験機事業では、引き続き、試験機・計測機器の開発・設計・生産からメンテナンス・校正まで、長年の実績と高度な技術に裏付けられたワンストップソリューションの提供により、民需・官公需を問わず幅広いユーザーに製品・サービスを提供するとともに、海外展開も視野に入れ、更なる受注拡大に取り組みました。

エンジニアリング事業では、ゆるみ止め製品（ナット・スプリング）の高速道路や橋梁、公共施設などのインフラマーケットへの浸透および市場シェア拡大を図ってまいりました。また、一般消費者向けの生活関

連商品も、アイテムごとに製品の販売拡大に努めてまいりました。

海外事業では、中国子会社において、中国国内のほか日本や欧米向けにオフィス家具部品を中心に自動車部品や家電部品などのプラスチック成型品の製造・販売に注力するとともに、昨年発覚した中国子会社の元役員による不正問題を受けて、子会社の指導・監督体制の強化、内部統制の強化等のガバナンス体制の改善や役員員のコンプライアンス意識の改善を進めてまいりました。

当上半期の業績につきましては、売上高は前年同期よりも大幅に増加し、営業利益も大きく改善して黒字に転換いたしました。

当社といたしましては、今後も皆様の信頼とご期待にお応えできるよう、創業当初の「モノづくり」の原点を大切に、主力事業である試験機事業とエンジニアリング事業を中心に、海外事業の建直しや新規事業の検討も進め、グループの事業拡大を図り、更なる発展を目指す所存であります。

皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

TKS
TOKYO KOKI

TECHNOLOGY AND KNOWLEDGE ENRICH SOCIETY
「技術と知識で豊かな社会の実現に貢献する」

技術への挑戦と
顧客からの信頼

常にお客様の立場に立ち、
“価値ある商品”を提供します。

人間性の尊重

一人ひとりの“能力・意欲・創意を
尊重する”とともに、やさしさと
温かみのある人間集団を目指します。

地域社会への貢献

日々の誠実な活動を通じ、
地域からも“信頼される
企業市民”であり続けます。

決算ハイライト

第113期第2四半期累計期間 (2018年3月1日～2018年8月31日)

	連結業績	個別業績 (当社単体)
売上高	2,434百万円 (前年同期比+16.8%)	195百万円 (前年同期比+17.7%)
営業利益	112百万円 (前年同期は△254百万円)	△0百万円 (前年同期は7百万円)
経常利益	97百万円 (前年同期は△279百万円)	△8百万円 (前年同期は3百万円)
親会社株主に帰属する四半期純利益又は四半期純利益	310百万円 (前年同期は△68百万円)	23百万円 (前年同期は△23百万円)
1株当たり四半期純利益	43円60銭	3円28銭

※△は損失を示しております。

※1株当たり四半期純利益については、2018年9月1日付の株式併合に伴い、期首に株式併合が行われたと仮定して算定しております。

当第2四半期連結累計期間は、試験機事業では、試験機の標準図面の整備、競争購買の強化等による原価低減を進めるとともに、相模原工場および豊橋工場の連携を推進すること等により、高額・特殊案件の工程管理を強化してまいりました。また、販売体制の見直しを行い、組織としての営業力強化・効率化を図り、引合いの多い標準品だけでなく特殊品についても受注の拡大を図るとともに、海外展開も視野に入れて営業活動に取り組みました。なお、当期間に予定していた一部大型案件の売上がずれ込んだため、期初の計画を下回ったものの、前年同期を上回る売上高・利益を確保することができました。

エンジニアリング事業では、インフラマーケットを対象にゆるみ止めナットおよびスプリングの拡販に努めてまいりました。また、訪日客をターゲットとした量販店向け商品について、中国子会社と連携し、顧客満足度の向上と販売拡大に努めました。その結果、量販店向け商品の一部は伸び悩んだものの、ゆるみ止めナットとゆるみ止めスプリングは比較的堅調に推移いたしました。

海外事業では、オフィス家具部品や家電部品、自動車関連部品等のプラスチック成型品の製造・販売の拡充を図りました。中国子会社において昨年の不正事件の影響から完全に脱すべく製造・販売の両面で改善に努めるとともに、無錫市政府による取用を受けて本社・工場の移転を実施しました。生産体制の整備・改善に時間を要しましたが、売上高・営業損益ともに対前年同期で改善を果たすことができました。

また、中国子会社である無錫三和塑料製品有限公司の本社工場の取用に伴う取用補償金463百万円を特別利益に計上するとともに、当該取用に係る移転関連費用107百万円および同社の事業再構築に伴い発生した元従業員等との労働関係訴訟等に対する損失見込額39百万円を特別損失に計上いたしました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の連結業績は上記のとおりとなりました。

業績のポイント

- ①試験機事業は、一部大型案件の売上のずれ込みがあるも前年同期を上回る売上高・利益を確保
- ②エンジニアリング事業は、量販店向け商品の一部は伸び悩みも、ゆるみ止め製品は比較的堅調に推移
- ③中国子会社では製造・販売両面で改善に取り組み、売上・損益ともに前年同期より改善
- ④中国子会社の本社工場の取用・移転に関して特別利益および特別損失を計上

■ 業績の見通し (2018年10月15日の業績予想公表時点)

第113期 (2018年3月1日～2019年2月28日)

		売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
連結業績	通期	5,000百万円	350百万円	290百万円	220百万円

※実質的な持株会社体制に移行しているため、個別業績予想の公表は行っておりません。

事業内容

1923年創業の伝統と高い技術力を誇る試験機事業をはじめとして、画期的なアイデアで社会に安心と安全を提供するエンジニアリング事業など、技術と知識で豊かな社会の実現に貢献すべく様々な事業を展開しています。

試験機事業

試験機・計測機器の開発・設計・生産からメンテナンス・校正・受託試験サービスまで高度な技術力によりワンストップソリューションを提供しており、産業界や各種研究機関から広くご愛顧をいただいております。



試験機事業

海外事業

海外事業

中国子会社の樹脂成型技術を活かして、オフィス家具部品や自動車関連部品、家電関連部品等のプラスチック成型品の製造販売を行っております。



TKS
TOKYO KOKI

Technology and Knowledge ENRICH SOCIETY

エンジニアリング事業

エンジニアリング事業

画期的なアイデアと独自の技術で開発したゆるみ止めナットとナットの脱落を防止するゆるみ止めスプリングの製造販売(締結具事業)を中心に、一般消費者向け商品の卸販売等(民生事業)を行っております。



アジア地域における拠点

MONGOLIA

CHINA

NORTH KOREA

SOUTH KOREA

JAPAN

無錫三和塑料製品有限公司

東京衡機試験機豊橋工場

東京衡機試験機相模原工場

東京衡機試験機サービス

東京衡機エンジニアリング

TKS 東京衡機

事業拠点



相模原工場

本店

〒101-0025

東京都千代田区神田佐久間町一丁目9番地 第7東ビル



豊橋工場

国内子会社

株式会社東京衡機試験機

■本店

東京都千代田区神田佐久間町一丁目9番地 第7東ビル

■相模原工場・東京支店

神奈川県相模原市緑区三井315番地

■豊橋工場・中部支店

愛知県豊橋市北島町字北島202番地

■大阪支店

大阪市淀川区宮原四丁目1番45号 新大阪八千代ビル2階

株式会社東京衡機試験機サービス

■本社

神奈川県相模原市緑区三井315番地

株式会社東京衡機エンジニアリング

■本社

東京都千代田区神田佐久間町一丁目9番地 第7東ビル

株式会社テークステレコム ※事業休止中

海外子会社

無錫三和塑料製品有限公司 (中国江蘇省無錫市)

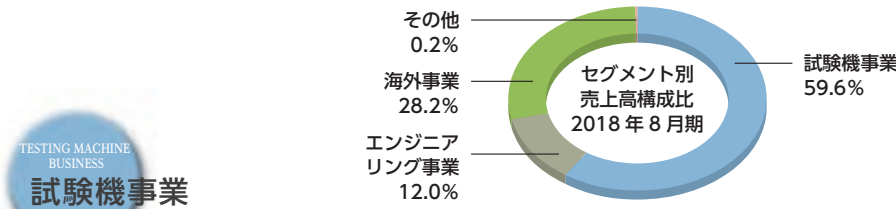
無錫特可思衡機貿易有限公司 (中国江蘇省無錫市)

※無錫特可思衡機製造有限公司から社名変更

事業の概況

当社グループは、2017年度から「再生のステージから、新たな企業創生へのチャレンジへ！」をテーマに各事業において以下のビジョンを掲げ、新たな東京衡機グループの創生に取り組んでいます。

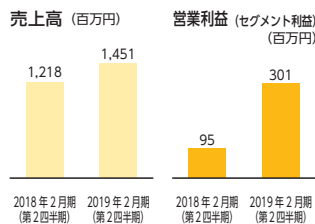
試験機事業	産業の基盤技術として、存在感のある試験機事業会社を目指す。
エンジニアリング事業	顧客満足と社会の発展に貢献する企業を目指す。
海外事業	生産能力拡張により上海江蘇地域で業界 No.1 を目指す。



Testing Machine Business

TESTING MACHINE BUSINESS
試験機事業

売上高 1,451百万円
営業利益 (セグメント利益) 301百万円

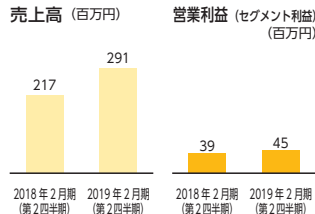


当上半期は、試験機の標準図面の整備や購買の強化等によりコスト削減を進めるとともに、相模原工場および豊橋工場の連携を推進し、高額・特殊案件の工程管理を強化いたしました。また、支店ごとの販売体制を見直し、組織としての営業力の強化を図り、引合いの多い標準品だけではなく特殊品についても受注拡大を目指すとともに、海外展開も視野に入れて営業活動に取り組みました。その結果、一部大型案件の売上が下半期にずれ込んだものの、前年同期を上回る売上高・利益を確保いたしました。



Engineering BUSINESS
エンジニアリング事業

売上高 291百万円
営業利益 (セグメント利益) 45百万円



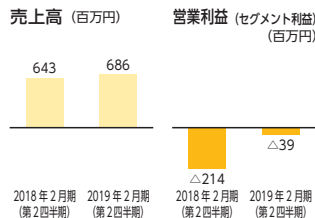
当上半期は、エンジニアリング事業では、インフラマーケットを対象にゆるみ止め製品の拡販に努めてまいりました。また、中国子会社との連携の下、訪日客をターゲットとした量販店向け商品（軽量スーツケースおよびステンレスポトル）の販売拡大と顧客満足度の向上に努めました。その結果、量販店向け商品の一部は伸び悩んだものの、ゆるみ止めナットとゆるみ止めスプリングは比較的堅調に推移し、売上高・利益ともに前年同期を上回りました。今後は、全体の底上げを図りより一層の事業拡大に努めます。



Engineering Business

Overseas BUSINESS
海外事業

売上高 686百万円
営業利益 (セグメント利益) △39百万円



当上半期は、海外事業では、中国子会社でオフィス家具部品を中心として自動車関連部品や家電部品等のプラスチック成型品の製造・販売の拡充を図りました。昨年の不正事件の影響から脱却すべく事業の建直しに取り組んでおりますが、本社工場の取用・移転もあったことから、生産体制の整備・改善に時間を要し、売上高・営業利益ともに前年同期よりも改善したものの、営業利益は赤字となりました。今後も引き続き、内部統制の改善を含めてマネジメント体制を強化し、事業の建直しを進めてまいります。



Overseas Business

※売上高には、外部顧客への売上高を記載しております。
※△は損失を示しております。

第2四半期（累計）連結財務諸表（概要）（単位：百万円、単位未満切捨て）

四半期連結貸借対照表

科目	前第2四半期末 2017年8月31日現在	当第2四半期末 2018年8月31日現在
資産の部		
流動資産	2,746	2,945
現金及び預金	606	555
受取手形及び売掛金	1,285	1,142
たな卸資産 1	748	1,120
繰延税金資産	7	7
その他	206	215
貸倒引当金	△ 108	△ 95
固定資産	1,359	1,167
有形固定資産 2	1,150	1,071
無形固定資産 3	70	11
繰延税金資産	63	37
投資その他	281	252
貸倒引当金	△ 206	△ 205
資産合計	4,105	4,113
負債の部		
流動負債	2,014	2,121
固定負債	864	788
負債合計 4	2,879	2,910
純資産の部		
株主資本 5	858	833
その他の包括利益累計額	367	369
新株予約権	0	—
純資産合計	1,226	1,203
負債純資産合計	4,105	4,113

Point1 たな卸資産

主に試験機事業の大型案件に係る仕掛品の増加により前第2四半期末に比べ3億71百万円増加しております。

Point2 有形固定資産

主に中国子会社である無錫三和塑料製品有限公司の前連結会計年度における固定資産の減損損失の計上により、前第2四半期末に比べ78百万円減少しております。

Point3 無形固定資産

主に中国子会社である無錫三和塑料製品有限公司に係る前連結会計年度におけるのれんの減損損失の計上により、前第2四半期末に比べ58百万円減少しております。

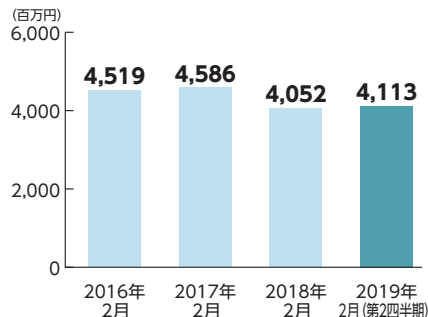
Point4 負債合計

長期・短期ともに借入金は約定返済により減少するも、買掛債務の増加や当第2四半期で新たに訴訟損失引当金を計上したことから、前第2四半期末に比べ30百万円増加しております。

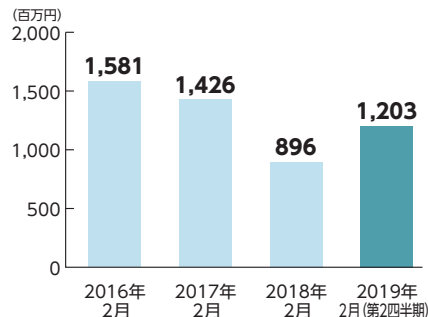
Point5 株主資本

前連結会計年度の下半期は3億35百万円の純損失なるも、当上半期は3億10百万円の純利益となったことから、前第2四半期末に比べ25百万円の減少となっております。

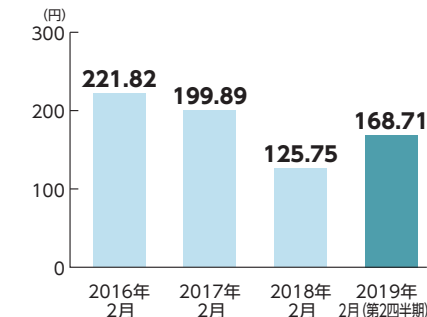
総資産



純資産



1株当たり純資産



※2018年9月1日付の株式併合に伴い、2016年度期首に株式併合が行われたと仮定して算定しております。

四半期連結損益計算書

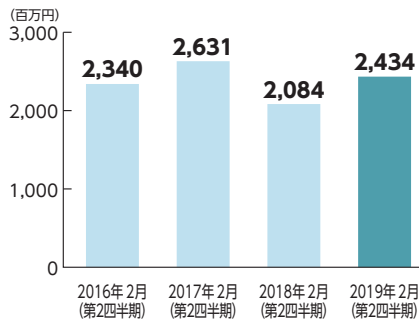
科目	前第2四半期 (累計) 2017年3月1日～2017年8月31日	当第2四半期 (累計) 2018年3月1日～2018年8月31日
売上高 6	2,084	2,434
売上原価	1,633	1,765
売上総利益 7	450	668
販売費及び一般管理費 8	704	556
営業利益	△ 254	112
営業外収益	2	7
営業外費用	27	22
経常利益	△ 279	97
特別利益 9	298	476
特別損失 10	88	148
税金等調整前四半期純利益	△ 69	425
法人税等	△ 0	115
四半期純利益	△ 68	310
親会社株主に帰属する四半期純利益	△ 68	310

※△は損失を示しております。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

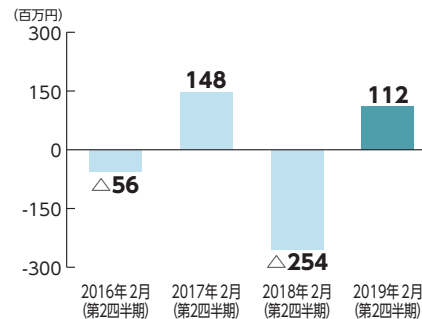
科目	前第2四半期 (累計) 2017年3月1日～2017年8月31日	当第2四半期 (累計) 2018年3月1日～2018年8月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 170	461
投資活動によるキャッシュ・フロー	120	△ 122
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 27	△ 232
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	△ 7
現金及び現金同等物の増加額又は減少額 (△)	△ 76	99
現金及び現金同等物の期首残高	672	439
現金及び現金同等物の四半期末残高	595	539

売上高

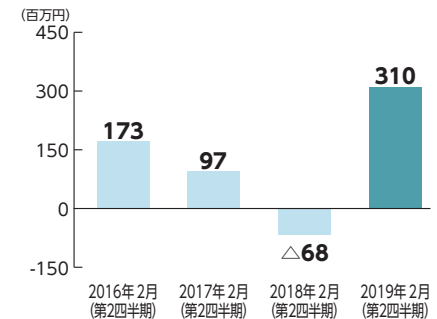


※△は損失を示しております。

営業利益



親会社株主に帰属する四半期純利益



※△は損失を示しております。

Point6 売上高

売上高は前第2四半期 (累計) に比べ3億50百万円増加しております。試験機事業は2億32百万円、エンジニアリング事業は74百万円、海外事業は42百万円とすべてのセグメントで増加となっております。なお、売上高増加の要因は、試験機事業において前期からずれた大型案件の売上があったことによります。

Point7 売上総利益

売上総利益は、売上高の増加を主に前第2四半期 (累計) に比べ2億17百万円増加しております。売上総利益率は試験機事業における原価低減などにより5.9ポイント改善し27.5%となっております。

Point8 販売費及び一般管理費

販売費及び一般管理費は、中国子会社である無錫三和塑料製品有限公司の事業再構築に伴う諸経費の削減を主に前第2四半期 (累計) に比べ1億48百万円減少しております。

Point9 特別利益

当第2四半期 (累計) は、中国子会社である無錫三和塑料製品有限公司の本社工場の取用に伴う補償金4億63百万円を特別利益に計上しております。

Point10 特別損失

当第2四半期 (累計) は、中国子会社である無錫三和塑料製品有限公司の本社工場の取用に伴う移転費用1億7百万円および同社の元従業員等との労働関係訴訟等に伴う損失見込額39百万円を特別損失に計上しております。

特集

疲労試験機の新ブランド 「Fine Puls」のご紹介



このたび、(株)東京衡機試験機の主要製品である「疲労試験機」のブランド名を「Fine Puls」とすることといたしました。これを機に、これまで以上にお客様に満足いただける試験機をご提供できるよう取り組み、ブランドイメージの向上と認知度アップに努める所存でございます。「Fine Puls」として展開する主な製品をご紹介します。

今後ともご愛顧賜りますよう、お願い申し上げます。



油圧サーボ式疲労試験機



電気式リニア疲労試験機



回転曲げ疲労試験機

各種金属、非金属の疲労試験や新素材開発に用いられる試験機です。電気油圧サーボ方式を用いたシステムにより安定性の良い、制御精度の高い試験ができます。流体静圧軸受けによりメタルタッチのないスムーズな動作を提供します。オプションの特殊雰囲気装置の装着が可能です。

ACサーボモータとボールねじの組み合わせによるリニア方向の疲労試験機です。フレームタイプとトラニオンタイプがあり、各種構造物材および材料の疲労特性評価を行うことができます。油圧源や冷却水を使用しないため、環境に優しい試験機です。

金属材料における疲れ限界をもとめるために使用されるものです。JIS Z 2274「金属材料の回転曲げ疲れ試験」規格に適合した回転曲げ試験機です。常温タイプと電気炉付の高温タイプがあります。



小型ねじり疲労試験機

ACサーボモータによる小型ねじり疲労試験機です。小型の製品および材料のねじり疲労特性評価を行うことができます。油圧源や冷却水を使用しないため、環境に優しい試験機です。



油圧サーボ式ねじり疲労試験機

金属材料などのねじり剛性や強度試験および自動車部品の耐久性や性能に関する品質管理に用いられます。電気油圧サーボ方式を用いたシステムにより安定性の良い、制御精度の高い試験ができます。流体静圧軸受けによりメタルタッチのないスムーズな動作を提供します。



平面曲げ疲労試験機

グローバルスタンダードのSchenck式均一曲げ機構部を採用し、クランク方式により、金属をはじめとした各種材料の平板試験片による曲げ量一定での繰返し曲げ試験が行えます。また、オプションの治具を装着し丸棒試験片によるねじり量一定での繰返しねじり試験が行えます。

トピックス

新製品「スマートインサートナット」(※)のご紹介

このたび、当社グループ子会社の㈱東京衡機エンジニアリングが新製品「スマートインサートナット」の製造・販売を開始いたしました。

「スマートインサートナット」は「スマートハイパーロードナット」の外側に外逆ねじを切ることにより下地鋼材に緩み止め機能付ナットを溶接せずに留め付けることを可能にした製品です。

従来からインサート（建築物や構造物、機器等に埋め込まれる雌ねじ）の代わりとして下地鋼材にナットを溶接し、そこに様々な仕上げ建材を取り付ける方法は汎用的に採用されていますが、ナットを溶接する作業には防錆処理を施す必要が生じます。この点、スマートインサートナットは、無溶接で下地鋼材に取り付けることが可能な製品ですので、防錆処理の手間を省くことができ、省力化とコストダウンを実現することができました。また、溶接を行わず下地鋼材に取り付けることができますので、熱によるねじ山の变形の心配もありません。

スマートインサートナットは、ばねの緊縮力を利用したスプリング構造の緩み止めナットです。標準の12角ソケットを用いて通常のボルト締付けの要領で取り付けられるなど作業性が良く、また、緩み止め効果が極めて高いことが特長です。NAS3350（National Aerospace Standard 米国宇宙航空規格）に準拠した衝撃型振動試験において脱落防止効果は証明されており、他社製品との比較試験においても高い評価を得ております。

※「スマートインサートナット」は、大成建設㈱の出願商標（出願番号：商願2018—69301）です。



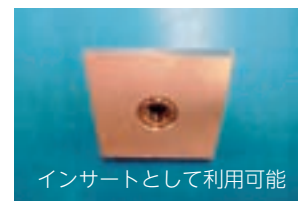
スマートインサートナット外観



取付け部材に挿入



取付け完了（上面）



取付け完了（下面）

「改善状況報告書」の提出

当社は、昨年発覚した中国子会社における不正および不適切な会計処理により昨年8月に過年度の決算短信等の訂正を開示し、東京証券取引所より、その経緯および改善措置を記載した改善報告書の提出を求められ、本年3月26日に同報告書を提出いたしました。また、本年5月31日付で当社の経営体制が変更されたことから、それを踏まえて見直した改善措置を記載した改善状況報告書を本年8月20日に提出いたしました。これに関し、当社は、本年10月11日に、上記改善報告書について、8月20日提出の改善状況報告書に記載した追加の内容を含む改善措置の実施状況および運用状況を記載した改善状況報告書を東京証券取引所に提出いたしました。

当社といたしましては、過年度決算の訂正および決算発表の遅延により、株主、投資家、市場関係者の皆様並びにお取引先その他すべてのステークホルダーの皆様に多大なご心配とご迷惑をおかけいたしましたことを重く受け止め、再びこのような不祥事を繰り返すことがないように、当社グループの全役職員一丸となって今後も継続的に改善措置を実行し、コンプライアンス体制を強化し、信頼回復に努めてまいります。



株式情報 (2018年8月31日現在)

● 株式の概況

発行可能株式総数	260,000,000株
発行済株式の総数*	71,337,916株
株主数	3,405名

※上記の発行済株式の総数には、自己株式26,847株を含みます。

※2018年9月1日付で株式併合を実施し、発行可能株式総数は26,000,000株、発行済株式の総数は7,133,791株となっております。

● 大株主 (上位10名)

株主名	持株数	持株比率
Dream Bridge株式会社	21,401千株	30.01%
株式会社アジアゲートホールディングス	5,978千株	8.38%
何 積橋	1,939千株	2.71%
佐藤 充弘	1,793千株	2.51%
岡崎 由雄	1,050千株	1.47%
石井 照義	792千株	1.11%
宝天大同	570千株	0.79%
池上 道弘	466千株	0.65%
中東 文和	382千株	0.53%
東京衡機従業員持株会	348千株	0.48%

※持株比率の算定においては、発行済株式より自己株式(26,847株)を控除しております。

● 株式の分布状況



● 事業法人等	28,295千株	39.67%	● 1単元未満	206名	6.05%
● 個人・その他	41,756千株	58.53%	● 1単元以上	1,890名	55.50%
● 金融機関	443千株	0.62%	● 5単元以上	478名	14.04%
● 証券会社	493千株	0.69%	● 10単元以上	650名	19.09%
● 外国法人等	323千株	0.45%	● 50単元以上	97名	2.85%
● 自己名義株式	26千株	0.04%	● 100単元以上	84名	2.47%
合計	71,337千株	100%	合計	3,405名	100%



会社概要 (2018年8月31日現在)

商号	株式会社東京衡機
本店所在地	東京都千代田区神田佐久間町一丁目9番地
創立	1923年(大正12年)3月20日
創資本金	27億1,355万2,013円
従業員数	14名(連結385名)
事業内容	・東京衡機グループの経営戦略の立案・遂行 ・グループ子会社の統括管理およびサポート

【グループの事業内容】

- ・試験・計測機器および関連機器の製造・販売ならびに修理・メンテナンス、校正、受託試験その他の付帯サービス
- ・ゆるみ止めナット、ゆるみ止めスプリング、特殊ばね、ボルトその他の締結部材の製造・販売、各種サービス
- ・一般消費者向け商品の販売、各種サービス

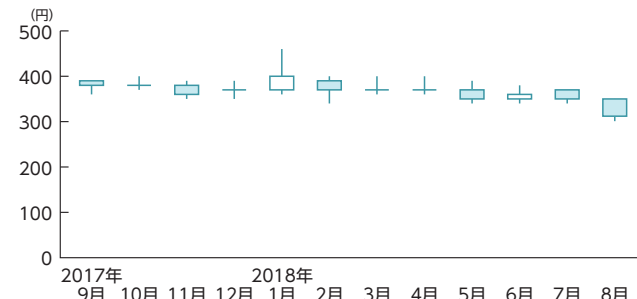
役員等 (2018年11月1日現在)

代表取締役社長	竹中 洋
取締役(社外取締役)	石渡 隆生
取締役(社外取締役)	小野沢 隆一
取締役(社外取締役)	飯屋 浩宏
取締役(社外取締役、弁護士)	田中 明
常勤監査役	鶴見 孝三
監査役(社外監査役)	藤田 泰三
監査役(社外監査役、弁護士)	水川 俊夫
監査役(社外監査役)	玉虫 剛
監査役(社外監査役、公認会計士・税理士)	瀬山 剛
常務執行役員 管理担当	猪野 久仁朗
常務執行役員 試験機事業担当	佐藤 良則
常務執行役員 試験機事業担当	鶴田 文雄
常務執行役員 エンジニアリング事業担当	平田 真一郎

会計監査人

RSM 清和監査法人

● 株価の推移



※2018年9月1日付で当社普通株式10株を1株の割合で株式併合を行っているため、上記期間の初めに株式併合が行われたと仮定して記載しております。

株主メモ

事業年度	3月1日から翌年2月末日まで
期末配当金受領株主確定日	2月末日
定時株主総会	毎年5月開催
株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社
同上連絡先	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 ☎ 0120-782-031 (フリーダイヤル)
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同上連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒183-0044 東京都府中市日鋼町1番1号 ☎ 0120-232-711 (フリーダイヤル) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場金融商品取引所	東京証券取引所市場第二部
公告の方法	電子公告 (掲載URL http://www.tksnet.co.jp) (ただし、電子公告によることができない事故その他の止むを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、単元未満株式買取・買増請求その他の各種お手続きにつきましては、原則として、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
- 特別口座に登録された株式に関するお手続きにつきましては、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行株式会社)にお問い合わせください。同行全国各支店でもお取次ぎいたします。

東京衡機ホームページ
<http://www.tksnet.co.jp/>

IR情報はこちらからご覧いただけます。



ロゴマークについて

“技術力” “獨創性” “人” “伝統” 全てをリンクさせ、一丸となって新しい時代へ向かう東京衡機の姿を表現するため、「青」「赤」「緑」「紫」を「光のイメージ」に展開しています。

青：東京衡機の技術力

真っ青な海や空を眺めていると不思議と心が安らぎ、ポジティブな気持ちになります。そのことから「青」は冷静、自立、希望を象徴し、また知性、誠実のイメージをもつ色といわれています。次代のシーズを冷静に判断し、お客様のご要望に的確に応えるため、あらゆる知性を集約した、東京衡機の“技術力”を「青」で表現しています。

赤：東京衡機の獨創性

万物に恵みを与えてくれる太陽の色「赤」は、外へと向かうパワーを感じさせます。

情熱、エネルギー、ダイナミック、活動的なイメージがあり、幸運を招く色としても知られています。新しい次代へ挑むエネルギーとなる、東京衡機の“獨創性”を「赤」で表現しています。

緑：東京衡機の人

自然の美しさや木々の芽吹きを連想させる「緑」は、すがすがしさ、新鮮さ、新しい可能性、生命力を象徴する色です。いつまでも新鮮で、新しい可能性に満ち、時代を乗り越える生命力を備えた東京衡機の財産“人”を「緑」で表現しています。

紫：東京衡機の伝統

染料の入手が困難なこと、染め出す技術が高度なことより、古来から「紫」は高貴な色として崇められ、また伝統、古典のイメージをもつ色です。1923年創業という長い歴史を誇る、東京衡機の“伝統”を「紫」で表現しています。